

### 35. 第2種治療装置を用いた術後イレウスに対する高気圧酸素治療

古山信明, 樋口道雄, 鈴木卓二  
大塚博明

(千葉大学医学部手術部)

当院では1988年末より第2種高気圧治療装置が稼動し、今まで制約のあった第1種治療装置に比べ術後イレウスに対する高気圧酸素治療の適応が拡大し、より積極的に治療が行われるようになった。現在までの約3年5ヶ月の間に284例の術後イレウスの治療を経験したが、今回は、その治療成績を分析し有効性を検討した。

**【方法】**第2種高気圧治療装置(川崎エンジニア社製 KHO-302型)を用い、治療圧2.0ATA、加圧・減圧を含めた治療時間75分の条件で高気圧酸素治療を施行した284例の術後イレウス症例を対象とし、イレウスが解除した症例を有効とした。

**【成績】**対象となった全術後イレウス284例中、225例にイレウス状態の消失が得られ、有効率は79.2%であった。小児、成人別にみると、小児症例では103例中91例に有効で、有効率は88.3%であり、成人症例では181例中134例に有効で、有効率は74.0%であった。さらに初発例に限ってみると、284例中189例で、有効例は142例、75.1%であるが、小児症例の86.7%に対して成人症例では72.0%と低かった。

初発例に対し高気圧酸素治療を施行し、イレウスが解除したあと再びイレウスが発生する再発症例が問題になるが、再発症例に対する治療成績は、小児症例で85.0%、成人症例で90.0%と高い有効性を示している。

**【考案】**第2種高気圧治療装置では疾病の異なる多人数の患者を収容する。イレウスの患者では治療中、嘔吐、腹痛、排ガス、排便などが起る場合があり、他の患者の理解と協力が不可欠であるがイレウスの手術による解除が根治的治療となり得ないことを考えれば、今回の治療成績は十分合理的であり、積極的に施行すべき治療法と考えた。